

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: シクロプロパン		
化学名	: シクロプロパン (Cyclopropane)		
ガスコード	: 333		
会社名	: 高千穂化学工業株式会社		
住所	: 〒194-0004 東京都町田市鶴間 1557		
担当部門	: 品質保証課		
連絡先	: Tel; 042-796-5501	FAX; 042-795-7168	
整理番号	: TKSD-20333G		
緊急連絡先	: 町田工場 保安統括者 Tel: 042-796-5501		
推奨用途及び使用上の制限	: 化学物質の製造原料用等、工業用に使用する。 : 医療用、食品添加物等に使用してはならない。		
作成日	: 2016年4月28日	改訂日	: -

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性・引火性ガス 高压ガス	区分1 液化ガス
健康に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分3(麻酔作用)
環境に対する有害性	分類できない	

記載がないものは分類対象外または分類できない

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	: 危険
危険有害性情報	: H220 極めて可燃性又は引火性の高いガス : H280 高压ガス;熱すると爆発のおそれ : H336 眠気やめまいのおそれ

注意書き

[安全対策]	: P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙 : P260 ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 : P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
[応急措置]	: P377 漏洩ガス火災の場合:漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。 : P381 安全に対処できるならば、着火源を除去すること。 : P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 : P312 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
[保管]	: P405 施錠して保管すること。 : P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

- ： P410 日光から遮断すること。
- [廃棄]** ； P501 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従い適正に排気すること。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 ； 化学物質
 化学名又は一般名(化学式) ； シクロプロパン((CH₂)₃)

成分及び含有量:

化学物質	CAS No	分子量	官報公示番号		成分濃度
			化審法	安衛法	
シクロプロパン	75-19-4	42.08	(3)-3244	—	99.5%以上

4. 応急措置

- 吸入した場合** ； 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ； 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合** ； 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- 目に入った場合** ； 水で数分間注意深く洗うこと。
 ； 眼刺激が継続する場合は医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合** ； 口をすすぐこと。
 ； 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤** ； 小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、(周辺火災)散水、噴霧水。
- 使ってはならない消火剤** ； 棒状注水。
- 消火方法** ； 火災を発見したら、先ず部外者を安全な場所へ避難させる。
 ； 保護具着用の上、風上より消火作業を行なう。
 ； ガスの漏洩が直ちに停止できる場合は、散水、水噴霧、消火器で火災を速やかに消化する。散水により容器を冷却する。
 ； 消火後は直ちに容器弁および口金キャップを静かに増す締めしガスの漏洩を停止させる。
 ； ガスの漏洩を直ちに停止できない場合は、再発火や爆発の恐れが生じるので、火災を消火せずに、散水、水噴霧を続けて鎮火を待つ。
- 火災時の特有の有害危険性** ； 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
 ； 漏洩ガス火災の場合には、漏洩が安全に停止されない限り消火を行なわないこと。安全に対処できるならば、着火源を除去すること。
 ； 容器は火災に包まれると、内圧が上昇し破裂したり、安全栓が作動しガスが噴出したりする恐れがあるため以下の措置が必要である。
 - 容器の移動が可能であれば、速やかに安全な場所へ移動させる。
 - 移動が困難な場合は、容器及び周囲に散水し、容器の破裂を防止する。
- ； 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行なう者の保護** ； 消火を行なう者は、陽圧自給式空気呼吸器、耐火手袋、耐火服等の保護具を着用する。
 ； 空気式呼吸器(SCBA)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 少量漏洩の場合** ； 漏洩を発見したら、先ず部外者を安全な場所に避難させ、汚染空気を緊急排気し、新鮮な空気と速やかに置換する。

- : 配管からの漏洩の場合には、容器最近接の緊急遮断弁を閉止しガスの供給を止める。
- : 容器からの漏洩の場合、容器弁を締め漏洩を止める。
- : 容器からの漏洩が止まらない場合、着火源を取り除き、部外者が立ち入らないよう周囲を監視しながら、製造業者または販売業者に連絡して指示を受ける。
- : 移送中で漏洩が止まらない場合、開放された安全な場所に搬出し部外者が立ち入らないよう周囲を監視しながら、製造業者または販売業者に連絡して指示を受ける。
- : 漏洩を発見したら、先ず部外者を安全な場所に避難させ、汚染空気を緊急排気し、新鮮な空気と置換する。
- : 漏洩がおさまるまで部外者が立ち入らないよう監視するとともに製造業者または販売業者に連絡して指示を受ける。
- : 汚染地域での作業は、酸欠の恐れがあるため陽圧自給式空気呼吸器を着用し、必ず複数で行なう。
- : 散水や水噴霧により拡散させ、着火・爆発を防止する措置を取る。
- : 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。
- : 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
- : 必要に応じた換気を確保する。
- : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
- : 有害でなければ、火気、換気などに充分注意して蒸発、拡散させる。又は、散水して蒸発を促進させてもよい。
- : 漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- : ガスが拡散するまでその場所を隔離する。
- : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
- : 火花を発生しない安全な用具を使用する。

大量漏洩の場合

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

環境に対する注意事項 回収、中和、封じ込め 及び浄化の方法・機材

7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い上の注意

保管上の注意

- : 作業者の安全・周辺環境維持のため漏洩しない構造の設備を使用して取り扱う。
- : 容器弁等の操作は丁寧に行い、過大な力を掛けない。
- : 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、引きずる等の乱暴な取扱いをしない。
- : 転倒・転落防止措置を講ずる。
- : 使用済みの容器は、圧力を残した状態で、弁を閉め、出口キャップを締め込み、保護キャップを取り付ける。
- : 容器を加熱する時は、温湿布又は、40℃以下の温湯を用いる。
- : ガスを容器から取り出す場合は、必ず減圧弁を用いる。
- : ガスによる爆発を防止するため、周囲に着火源がないことを確認する。
- : 支燃性物質との混合をさける。
- : 静電気対策を行い、作業衣・作業靴は導電性のものを用いる。
- : 高圧ガス保安法に定められた方法により貯蔵する。
- : 充填容器、残ガス容器のいずれであっても所蔵所に保管する。
- : 貯蔵所の周囲には火気、引火性、発火性物質を置かない。
- : 又、強力な酸化剤(酸素、ハロゲン等)と一緒に保管しない。
- : 容器は40℃以下の温度に保ち直射日光の当たらない換気良好な乾燥した場所に保管する。
- : 容器はベルト、ロープ又は鎖等で、転倒を防止し保管する。
- : 容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	局所排気装置、換気装置の設置、容器置場、シリンダーキャビネットには漏洩検知器を設ける。
	関係者以外の立ち入りを禁止する。
許容濃度	日本産業衛生学会(2014年) : 設定されていない ACGIH(2014年) TLV-TWA : 設定されていない

保護具

呼吸器の保護具	: 空気式呼吸器(SCBA)を着用する。
手の保護具	: 耐火手袋、ゴム又は革手袋
目の保護具	: 安全ゴーグル、洗眼器
皮膚及び身体の保護具	: 耐火服、防火工具、安全靴。冷媒/低温用液体を取り扱う時は、常に耐熱用保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 無色
臭い	: 無臭
融点・凝固点	: -127.42°C
沸点、初留点	: -32.78°C
及び沸騰範囲	
燃焼又は爆発範囲	: 2.4~10.4 vol%
の上限/下限	
蒸気圧	: 618.4 kPa@21.1°C: Matheson
蒸気密度	: 1.751 kg/m ³ (@101.3kPa, @20°C): Matheson
比重(相対密度)	: 1.453 (@101.3kPa, @20°C, Air = 1) : Matheson
溶解度	: 水: .15°Cの水約 2.7 容量に対して、シクロプロパン1容量が溶解。 アルコール、エーテルに多量に溶解する。
オクタノール/水	: Log P=1.72
分配係数	
自然発火温度	: 497.8°C

10. 安定性及び反応性

反応性・化学安定性	: 情報なし。
危険有害反応可能性	: データなし。
避けるべき条件	: データなし。
混触危険物質	: データなし。
危険有害な分解生成物	: データなし。

11. 有害性情報

急性毒性 (吸入:ガス)	: マウスの2時間ばく露による LCLo 値は 282 mg /L (163927 ppmV) (4時間換算値:115914 ppmV) (PATTY (5th, 2001))により、LC50 値は >20000 ppmV/4h となる。GHS 分類:区分外
生殖細胞変異原性	: in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 試験として、エームス試験で陰性(HSDB (2003))の報告がある。GHS 分類:分類できない。
発がん性	: データなし。なお、揮発性麻酔薬としては、IARC でグループ 3 に分類されている(IARC s uppl . 7 (1987))。GHS 分類:分類できない。
生殖毒性	: データ不足。なお、麻酔薬には動物試験で催奇形性を示すものが多く、一般的な吸入麻酔薬では骨格異常が主であり、本物質の場合はマウスおよびラットで多発性欠損を起こしたと記述されている(Birth Defects (3rd, 2000))が、それ以上の記載はなく、データの詳細は不明である。GHS 分類:分類できない。

特定標的臓器／全身毒性 : 本物質には麻酔作用および中枢神経系抑制が見られ、吸入麻酔薬として使用されていた(PATY (5th, 2001))。マウスに 5.8 mmol/L を吸入ばく露後 3 分で感覚消失を示したが、1.5 分で回復したとの報告(PATY (5th, 2001))、また、回復は速く、ばく露時間に関係なく吸入後 10 分以内であるとの記載(HSDB (2003))がある。GHS 分類: 区分 3(麻酔作用)。

12. 環境影響情報

: 分類できない。

13. 廃棄上の注意

- : 内容物／容器は勝手に廃棄せず、製造業者または販売業者に問い合わせること。
- : 消費設備からの排気ガスは次の処置を行なう。
爆発範囲以下まで希釈して、ベントスタック等から大気に放出する。
燃焼除外装置に導入して焼却処理する。

14. 輸送上の注意

危険物輸送に関する国連分類及び国連番号

国連分類 : 2.1(高压ガス)
国連番号 : 1027
品名 : シクロプロパン

国内規制

陸上輸送

高压ガス保安法 : 第2条 (液化ガス)
一般高压ガス保安規則第2条 (可燃性ガス)
道路法 : 施行令第 19 条の 13「通行を制限できる物質」

海上輸送

港則法 : 施行規則第 12 条(危険物公示:高压ガス)
船舶安全法 : 第 3 条危険物告示別表 1(高压ガス)

航空輸送

航空法 : 施行規則第 194 条危険物

特別の安全対策

- : 高压ガス保安法に準拠して輸送する。
- : 移動時の容器温度は、40℃以下に保つ。
特に夏場はシートをかけ温度上昇の防止に努める。
- : 充填容器に衝撃が加わらないように、注意深く取り扱う
- : 移動中の容器の転倒、バルブの損傷等を防ぐための必要な措置を講ずる。
- : 消防法で規定された危険物と混同しない。
- : イエローカード、消化設備及び応急措置に必要な資材工具を携行する。

15. 適用法令

高压ガス保安法 : 第 2 条 (液化ガス)
: 一般高压ガス保安規則第 2 条(可燃性ガス)
労働安全衛生法 : 施行令別表第 1 危険物(可燃性のガス)
船舶安全法 : 危規則第 3 条危険物告示別表 1 高压ガス
港則法 : 施行規則第 12 条危険物(高压ガス)
航空法 : 施行規則第 194 条危険物(高压ガス, 輸送禁止)
道路法 : 施行令第 19 条の 13 (通行を制限できる物質)

16. その他の情報 引用文献

- 1) 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) (独)製品評価技術基盤機構ホームページ(2015)
- 2) GHS 分類結果 (独)製品評価技術基盤機構ホームページ(2015)
- 3) 厚生労働省 モデル SDS「シクロプロパン」 職場のあんぜんサイト(2015)
- 4) 「許容濃度の勧告(2014年) 産業衛生学会
- 5) 2014 ACGIH TLVs and BEIs
- 6) 国際連合(2013)『改訂5版 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS)』(仮訳).
- 7) 国際連合(2013)『改訂5版 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS)付属書3』(仮訳).
- 8) William Braker; Allen L Mossman. Matheson Gas Data Book, Sixth Edition (1980). Mathson

- 注) ・ 本 SDS 記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。
 ・ 注意事項等は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊なお取扱いの場合はその点ご配慮をお願いします。
 ・ 危険物有害性情報等は必ずしも十分とは言えないので、本 SDS 以外の資料や情報も十分に御確認の上、ご利用下さいますようお願いいたします。
 ・ 本物質は労働安全衛生法 第56条若しくは第57条1項に規定された表示の義務に該当するものではありません。そのため容器に貼付される注意ラベル(PLラベル)と本書記載のGHSラベル要素の絵文字表示は必ずしも同一のものではありません。

改訂履歴

改訂日	項目	改訂内容
2016年4月28日	全体	MSDS→SDS、「化学物質等安全データシート」→「安全データシート」 JIS Z 7253:2012 準拠 整理番号の変更による新規発行

以上